

哲学する本棚 「バリアフリーと哲学」ブックリスト

からだのバリアフリー

からだが思うように動かないとき、壁(バリア)を感じる。逆に、からだが他の人と違っていても、自由に生きる人もいる。

- | | | |
|----|---|--|
| 1 | 新編 風の旅
星野富弘
学習研究社 | 体育の先生だった星野さんは、二十三歳のときの事故で、首から下が動かせなくなった。口に筆をくわえて、何日もかけて詩を書き、絵を描く中で見たものは。 |
| 2 | ユニバーサルデザインとバリアフリーの図鑑
監/徳田克己
ポプラ社 | 左利き用はさみから、車いす用ウエディングドレスまで！ だれもが安心して快適な「ユニバーサルデザイン」、だれにとっても使いやすい「バリアフリー」を集めました。 |
| 3 | 風を切って走りたい！
—夢をかなえるバリアフリー自転車
高橋うらら
金の星社 | 足が不自由でも、自転車に乗りたい！ 堀田さんは、ものづくりが大好き。あるとき、子どものために三輪車をつくったら、つえをついている女性から声をかけられて…？ |
| 4 | さっちゃんのまほうのて
たばたせいいち、先天性四肢障害児父母の会、のべあきこ、しざわさよこ
偕成社 | あなたの方には、ゆびが いくつ ありますか。さっちゃんの みぎの方には、いつつのゆびが ないのです。ゆびがないって、へんですか？ |
| 5 | 記憶する体
伊藤亜紗
春秋社 | 全盲の西島さんは、話しながらメモを取る。左足を切断した大前さんは、左足の裏をキュッと丸める感覚でダンスする。「ない」体、「なくした」体とともに暮らす人々へのインタビュー集。 |
| 6 | 介護するからだ
細馬宏通
医学書院 | 箸をとり、蒲焼きをつかんで、もちあげ、口に運ぶ。足の裏をわずかにスリッパから浮かせて、スリッパを蹴とばさないように足を入れる。介護し、介護される人にとって、日常の動作はなんて |
| 7 | 語りかける身体—看護ケアの現象学
西村ユミ
講談社 | 「遷延性意識障害」とは、自発呼吸はあるけれど、言葉や動作で意思疎通ができない「植物状態」のこと。痛みも感じないというけれど、看護師さんは身体の語りにも耳を傾ける。 |
| 8 | つながりの作法—同じでもなく違うでもなく
綾屋紗月、熊谷晋一郎
日本放送出版協会 | 周りの情報がつながらない「自閉症スペクトラム」の身体。体じゅうの筋肉がつながりすぎて、思うように動けない「脳性マヒ」の身体。それぞれの身体をもつ二人の著者が、仲間と自分自 |
| 9 | ことば、身体、学び
—「できるようになる」とはどういうことか
為末大、今井むつみ
扶桑社 | ハードルをうまく跳べないときや、小数の計算ができないとき、なにかの壁(バリア)につき当たっている。「できない」ことが「できるようになる」ために、きっかけをくれる「ことば」とは。 |
| 10 | こわばる身体がほどけると
—西田幾多郎『善の研究』を読み直す
板橋勇仁
現代書館 | 感染予防、ファッション、ダイエット…わたしたちの身体はこわばり、生きづらさを抱えている。そんなこわばりをほどき、他者との交わりに入っていくために、西田哲学がヒントになる。 |

こころのバリアフリー

自分の思いが伝わらないときや、相手の思いが分からないとき、こころの壁(バリア)を感じる。こころとこころが出会うには？

- | | | |
|----|---|---|
| 11 | ツレがうつになりまして。
細川貂々
幻冬舎 | スーパーサラリーマンだったツレが、突然、うつになった。ツレの調子は振り子のように、良くなったり悪くなったりする。つらい中にも、ちょっと笑える二人闘病記。 |
| 12 | なぜふつうに食べられないのか
—拒食と過食の文化人類学
磯野真穂
春秋社 | 極端にやせたり、大食いしたり、「ふつうに食べられない」のは心の病？ 病院に行き、「原因」が分かれば治るのか？ そもそも、「ふつうに食べられる」ってどういうこと？ |
| 13 | べてるの家の「当事者研究」
浦賀べてるの家
医学書院 | 月末にいつも金欠の人、しょっちゅう逃亡する「施設長」、夜中に大ゲンカして飛び出すカップル。自分も周りも生きづらいなら、自分を「研究」してしまえ！ 精神障害の当事者たちの試み。 |

14	ブッダはなぜ腹が立たないの 島田裕巳	ランダムハウスジャパン	ブッダは腹が立たない。腹が立っても、空(くう)のなかに吸い込まれちゃう。空は便利だし、気が楽になる。
15	二度とない人生だから、今日一日は笑顔でいよう —生きるための禅の心 横田南嶺	PHP研究所	自分が死んだら、先に死んだ息子に会えるのか？ 宗教が違う相手と結婚するなんて無理？ わからないことはたくさんあるけれど、「今日一日は笑顔でいよう」と努力することはできる。
16	考える絵本1 ころろ 文／香山リカ 絵／益田ミリ	大月書店	「ころろのキズは、おそろしいものです」。でも、ころろのキズは、目に見えない。ころろって、なんだろう？
17	ココロの止まり木 河合隼雄	埼玉福祉会	「明るく元気に」がもたらす病、「燃えつき」をふせぐ「心のエネルギーの循環」。心のカウンセラーが書いたエッセイを、読みやすい大活字本でどうぞ。
18	1/4(よんぶんのいち)の奇跡 —「強者」を救う「弱者」の話 山元加津子、柳澤桂子、四方哲也、 新原豊	マキノ出版	「かっこちゃん」は、特別支援学校の先生。「障害」を持つ子どもたちを教えている。けれど、宇宙をつらぬく「本当のこと」を教えてくださいるのは、生徒たちだった。心と心がふれあうためのヒントとは？

異世代間のバリアフリー

「これだから最近の若者は…」、「…あんな老人にはなりたくない」。
世代が違くと、コミュニケーションが取りづらい？ 何が壁(バリア)になっているのだろう？

19	世代問題の再燃 —ハイデガー、アーレントとともに哲学する 森一郎	明石書店	世代を超えて残り続ける「核のごみ」をどう考えるか？ 世代を超えて受け継がれてきた「体育館」を壊してしまうのか？ 死と誕生の限界を超えて、世代問題の哲学へ。
20	お父さんがキモい理由を説明するね —父と娘がガチでトークしました 著／中山順司 企画・編集／リンダパブリッシャーズ	泰文堂	女子中学生から「キモい(気持ち悪い)」と言われるお父さん。娘に理由を聞いてみたら、意外にしっかり答えてくれた！ 距離は縮まらないけれど、関係性は作れるらしい。
21	児童養護施設という私のおうち—知ることからはじめる子どものためのフェアスタート 田中れいか	旬報社	虐待などの理由で、親と一緒に暮らせない子どもたちがいる。どうやって暮らしているの？ 親と会うことはできるの？ 進路ってどうやって決めるの？ 子ども世代が人生のフェアなスタートを切るためには。
22	「ゆとり」批判はどうつくられたのか —世代論を解きほぐす 佐藤博志・岡本智周	太郎次郎社エディタス	「ゆとり教育」のせいで、学力も協調性も低い若者が増えたのか？ きちんとデータを調べてみれば、そんなことはない。世代をひとくりにする見方から、「世代フリー」の考え方へ。
23	若者に辞められると困るので、強く言えません —マネジャーの心の負担を減らす11のルール 横山信弘	東洋経済新報社	昔の激励は、今のパワハラ？ でも、成長を感じられない職場だと、若者が辞めていく？ 今どきのマネジャーに求められる「バランス」とは。
24	マールとおばあちゃん 作／ティヌ・モルティール 絵／カーティエ・ヴェルメール 訳／江國香織	ブロンズ新社	マールのいちばんのなかよしは、おばあちゃん。二人は、おなじくらいがまんがきかず、おなじくらいいしんぼう。ところが、ある日、おばあちゃんが、ばったりたおれてしまい…？
25	認知症がやってきた！ —ママリンとおひとりさまの私の12年 酒井章子	産業編集センター	常識が通じなくなる病、認知症。夜中に徘徊し、相手が電話中でも道を尋ね、お巡りさんたちに覚えられる。そんなママリンと暮らして分かったのは、街の人々は意外に親切だということだった。
26	ようこそ、認知症カフェへ —未来をつくる地域包括ケアのかたち 武地一	ミネルヴァ書房	「今日は楽しかった…、いや、今日も楽しかった」。認知症カフェは、認知症の当事者と、介護する家族がくつろぐための場所。専門家、ボランティア、当事者たちがつながるための工夫とは。

ジェンダー・フリー

男の子は泣いちゃダメ？ 女の子はおしゃれが好き？
そう思い込んでいるのなら、ジェンダーの壁(バリア)に囚われているかもしれない。

- 27 キレイならいいのか—ビューティ・バイアス
著／デボラ L. ロード 訳／栗原泉 亜紀書房
「所長！ 昼食会には、髪をアップして、毎年新しいドレスを着て出席してください！」 どうして、女性ばかりが見た目に気を遣わないといけないのか？ おしゃれの自由が、実は女性を縛っているかもしれない。
- 28 せかいでさいしょにズボンをはいた女の子
作／キース・ネグラー 訳／石井睦美 光村教育図書
いまより ちょっと むかし、女の子は ズボンを はいちゃ いけなかった。「そんなの、おかしい！」とおもった メアリーは、いいアイデアを おもいついたが…？
- 29 哲学の女王たち—もうひとつの思想史入門
著／レベッカ・バクストン、リサ・ホワイティング 晶文社
訳／向井和美
女性哲学者の名前を何人言えますか？ フッサールの敏腕編集者、ワイトゲンシュタインの後継者、ナイジェリア初の博士号。哲学史には、もっと「女王たち」が登場してよいはずですよ。
- 30 おふみに続け！ 女性哲学者のフロンティア—西田幾多郎の姪 高橋ふみの生涯と思想
浅見洋 ポラーノ出版
幾多郎の姪・ふみは、かほく市木津出身。女学生が少ない時代に、哲学を専攻して東北帝国大学を卒業し、ドイツに留学した。苦勞を覚悟してまで、どうして哲学を学んだのだろう。
- 31 LGBTだけじゃない！ わたしの性—ジェンダー・アイデンティティ
監／佐々木掌子 国土社
「自分の性別って、なんだろう？」 「あの人の性別って、どれだろう？」 性別は揺れ動くもの。自分を大切に、まわりの人を大切にするには？
- 32 子どもを育てられるなんて思わなかった—LGBTQと「伝統的な家族」のこれから
編／古田大輔 勁草書房
著／杉山文野、松岡宗嗣、山下知子
日本にはすでに、子育てしている性的マイノリティ「ふうふ」がたくさんいる。日本の法律と現状は、どうなっているのだろう。「伝統的な家族」として守りたいものは、何なのだろう。
- 33 言葉の風景、哲学のレンズ
三木那由他 講談社
「定義」を盾にとって論破してくる人は、どこが間違っているのか。「議論が尽くされていない」という表現は、どうしてずるいのか。トランスジェンダーをカミングアウトするのは、どうして難しいのか。言語哲学的に考えると、分かることがある。
- 34 男の子は強くなきゃだめ？
文／ジェシカ・サンダーズ ずばる舎
絵／ロビー・キャスロ
訳／西田佳子
「男の子だから、こうでなくちゃいけない」ことなんて、ないんだよ。きみには、きみの強さがあるんだから。
- 35 いばらの道の男の子たちへ—ジェンダーレス時代の男の子育児論
太田啓子、田中俊之 光文社
「女性枠」は男性差別？ 男のハダカはギャグにしている？ 社会の中の「有害な男らしさ」から自由になるための育児論。

ことばと文化のバリアフリー

知らないことばを話す人は、壁(バリア)の向こうにいるかのようだ。あのことばを話せたなら、もっと世界が広がるだろう。

- 36 ろうの両親から生まれたぼくが聴こえる世界と聴こえない世界を歩き来して考えた30のこと
五十嵐大 幻冬舎
「親が障がい者である」という呪縛から逃れて、「ふつう」になりたい…。聴こえない両親のもとに生まれた聴こえる著者が、世間に傷つき、親を傷つけながら、ようやくたどり着いた「今」がある。
- 37 異なり記念日
齋藤陽道 医学書院
補聴器をつけて育った、ぼく。日本手話が母語のまま。その家庭に生まれてきた聴こえる子、いつきさん。ぼくらは異なる存在だけれど、ほかほかのごはんのような「ことば」を話したい。
- 38 手話でつながる世界1 手話で話そう
監／全日本ろうあ連盟 小峰書店
手話は、耳がきこえない人にとっての「ことば」。国ごとにちがっていて、方言もある。どんな表現をするのか、のぞいてみよう。
- 39 時間の解体新書—手話と産みの空間ではじめる
田中さをり 明石書店
長い間、哲学者は、手話という言語を知らなかった。ところが、哲学者におなじみの「時間」の問題は、手話で考えるとわかりやすい！ 手話思考の特性とは？

- | | | | | |
|----|--|---------------------------------|--------------|--|
| 40 | 五感の力でバリアをこえる
—わかりやすさ・こちよさの追求 | 成松一郎 | 大日本図書 | 色弱の人にも見やすいグラフから、視覚と聴覚に障害のある人が使う電話まで！ だれもが使いやすいデザインは、「フリーバリア」という新しい文化だ。 |
| 41 | 目の見えない白鳥さんとアートを見にいく | 川内有緒 | 集英社インターナショナル | えっ、目の見えない人が美術館に行くの？ あ、見える人が解説すればいいの。でも、見える人だって、アートをきちんと見ているとはかぎらなくて…？ 美術館は、バリアを楽しむところ。 |
| 42 | 日本語とにらめっこ—見えないぼくの学習奮闘記 | 著／モハメド・オマル・アブディン
聞き手・構成／河路由佳 | 白水社 | 全盲の青年が、スーダンから日本へやってきた！ 点字で日本語に出会い、油粘土で漢字を学び、おやじギャグも使いこなす。夏目漱石がお気に入りだそう。 |
| 43 | 『善の研究』の百年—世界へ／世界から | 編／藤田正勝 | 京都大学学術出版会 | 幾多郎は一度も海外に行かなかったけれど、幾多郎が書いた『善の研究』は八か国語に翻訳されている。ことばと文化の壁を超えて、読み継がれているのはなぜだろう。 |
| 44 | 同級生は外国人！？—多文化共生を考えよう①
「どうしてルールが守れないの？」
フィリピン人と日本人のダブル・ユウトの場合ほか | 監／吉富志津代 | 汐文社 | あなたのクラスには、外国人の友だちがいますか？ もしいたら、ほかの子とはなんだか様子がちがって見えるかもしれません。どうして、そんな行動をするんだろう？ |

哲学のバリアフリー

古代ギリシャの哲学は、限られた自由人だけのものだった。
でも、本当は、誰でも哲学していいんだ！ そのために、「哲学対話」や「哲学カフェ」がある。

- | | | | | |
|----|--------------------------------|--|---------|--|
| 45 | 哲学から〈てつがく〉へ！
—対話する子どもたちとともに | 森田伸子 | 勁草書房 | 「てつがく」することは、貯金箱に一つずつ確実な知識を蓄えていくこととはちがう。…それは生きる時間を経験することそのもの。学校でみんなでする「てつがく」は、にぎやかだ。 |
| 46 | ドイツの道徳教科書
—5, 6年実践哲学科の価値教育 | 編集代表／ローラント・ヴォルフガング・ヘンケ
監訳／濱谷佳奈
訳／栗原麗羅、小林亜未 | 明石書店 | ドイツの子どもたちは、「宗教科」か「倫理・哲学科」のどちらかを選んで学ぶ。哲学科を選んで、キリスト教やイスラム教、ヒンドゥー教のことも勉強する。日本の道徳の授業とはちがうのかな？ |
| 47 | 哲学カフェのつくりかた | 監／鷲田清一 編／カフェフィロ | 大阪大学出版会 | 哲学カフェは、一つのテーマについてじっくり話し合う場。一人で凝り固まりがちな哲学者にとっては、リハビリのようなもの。「予想とは違ったけど、おもしろい」という場になったらいいな。 |
| 48 | 活動の奇跡
—アーレント政治理論と哲学カフェ | 三浦隆宏 | 法政大学出版局 | 政治理論家・アーレントは、ナチスを逃れてアメリカに渡り、人々が言論を交わす「活動」の奇跡を見つめ続けた。片や、哲学カフェは、誰もが自由に発言できる「活動」の現場だ。両者を行き来する軌跡には、この哲学館も含まれていた。 |
| 49 | 震災に臨む—被災地での〈哲学対話〉の記録 | 西村高宏 | 法政大学出版局 | 大阪から仙台に異動して間もなく、著者は東日本大震災に巻き込まれた。〈当事者〉とは誰か、〈逃げる〉のは悪いことだったのか、生き残ることは〈負い目〉を意味するのか。被災地で交わさ |
| 50 | 哲学への権利 | 西山雄二 | 勁草書房 | 哲学への権利には、哲学を「学ぶ権利」だけでなく、「教える権利」も含まれる。たとえば小学校の先生にも、哲学を教える権利があるそう。フランスの国際哲学コレージュの挑戦。 |
| 51 | 水中の哲学者たち | 永井玲衣 | 晶文社 | たとえば、エレベーターで隣の人の頭に、見事な葉っぱが乗っていたとき。大変な打ち明け話を聞いたのに、ちっとも共感できなかったとき。哲学者にも日常があり、日常にも哲学がある。 |
| 52 | てつがくのライオン | 文／工藤直子 絵／長新太 | 復刊ドットコム | 「やあ、かたつむり。ぼくはきょう、てつがくだった」。てつがくは、やってみるもの、なってみるもの。 |

◆リストの本は、展示期間中は貸出できません。 展示会終了後3月13日(木)より、貸出できます。
予約をご希望の方は哲学館受付カウンターにて【タイトル】もしくは【展示本番号】を伝えるか、
かほく市立中央図書館のサイトから予約してください。
※予約のためには、かほく市立図書館・石川県西田幾多郎記念哲学館図書館「利用券」が必要です。